

臨床看護学

1 構成員

	平成16年3月31日現在
教授	4人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	2人（0人）
助手（うち病院籍）	7人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	12人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	25人

2 教官の異動状況

- 櫻庭 繁（教授）（H9. 4. 1～H16. 4. 1）
- 島田三恵子（教授）（H10. 4. 9～現職）
- 奈良間美保（教授）（H13. 4. 1～H16. 4. 1）
- 野澤 明子（教授）（H13. 8. 1～現職）
- 堀 妙子（講師）（H13. 8. 1～現職）
- 白尾久美子（講師）（H14. 4. 1～現職）
- 佐藤 直美（助手）（H9. 8. 1～現職）
- 稲勝 理恵（助手）（H10. 10. 1～H16. 3. 31）
- 宮城島恭子（助手）（H14. 4. 1～現職）
- 村上 静子（助手）（H13. 4. 1～現職）
- 久保 正子（助手）（H14. 4. 1～現職）
- 山崎 佳子（助手）（H14. 4. 16～H16. 3. 31）
- 安藤千英子（助手）（H15. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0.19

(2) 論文形式のプロシーディングズ数	5編
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	2編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	3編 (3編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Shimada M, Segawa M, Higurashi M, Akamatsu H, Oku K, Yamanami S : Effects of phototherapy in neonates on circadian sleep-wake and saliva cortisol level rhythms. Journal of Perinatal & Neonatal Nursing, 17 : 222-231, 2003
2. 藤井裕治, 渡邊千英子, 岡田周一, 本郷輝明, 大関武彦, 宮城島恭子, 堀妙子, 奈良間美保 : 小児血液・悪性腫瘍疾患の医療面接時における, 患者・家族が知りたい情報と医師・看護師が伝えたい情報, 小児科臨床57 : 197-206, 2004

インパクトファクターの小計 [0.19]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 奈良間美保, 堀妙子, 関恭子, 尾出真理子, 松岡真里, 北澤和子, 安蔵早苗 : 二分脊椎症の健康管理に対する患児と母親の認識と気持ち, 日本小児看護学会第13回学術集会講演集 : 164-165, 2003
2. 村上静子, 野澤明子, 岩田浩子 (2003) 看護学生の安全についての意識の現状 — 成人看護学実習の経験を通して —. 第34回日本看護学会論文集 — 看護教育 — : 9-11
3. 白尾久美子, 植村勝彦 (2003) がん患者の術前・術後の心理的状況. 愛知淑徳大学論集 — コミュニケーション学部篇 — : 87-98
4. 櫻庭繁, 久保正子 : アルコール依存症患者における自殺念慮と失感情症, 日本社会精神医学会雑誌, 12(1) : 129, 2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 北澤和子, 松岡真里, 安蔵早苗, 今関元子, 中西藤尾, 尾出真理子, 堀妙子, 奈良間美保 :

二分脊椎症患児の健康管理への取り組みと自立に向けての思い ― 学童期患児の保護者に焦点を当てて ―, 日本小児看護学会第13回学術集会講演集: 162-163, 2003

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Milne D, Sakuraba S, Matsushita M, Kubo M: Japan grapples with alcoholism crisis. Psychiatric News 38 (23), 12, pp56-57, APA New York, 2003.
2. 島田三恵子: 胎児期から周産期の子育て支援. 保健の科学, 45(4): 246-250, 2003
インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 堀妙子: ハイリスク新生児の看護, 新生児・ハイリスク新生児看護第2講, p1-198, テクノコミュニケーションズ, 2003
2. 伊藤取, 坂田三允, 櫻庭繁, 久保正子, 粕田孝行: 事例で学ぶ精神看護学. 櫻庭繁 (編) シリーズ事例で学ぶ看護学, pp94-108, pp138-148, メジカルフレンド社, 2003.
3. 伊藤取, 坂田三允, 櫻庭繁, 久保正子, 粕田孝行: 事例で学ぶ精神看護学. 櫻庭繁 (編) シリーズ事例で学ぶ看護学, pp94-108, メジカルフレンド社, 2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (310万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	2件 (302万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

奈良間美保（代表者）、堀妙子、宮城島恭子（研究分担者）基盤研究（C）（2）在宅療養児の包括的看護の確立にむけたコーディネーター育成プログラムの開発 130万円（新規）

佐藤 直美（代表者）若手研究（B）「遺伝子診療部における看護実践基準についての検討」60万円（新規）

白尾久美子（代表者）基盤研究（C）（2）「新人看護婦（士）が修得する臨床看護実践能力に関する研究」120万円（継続）

(4) 財団助成金

島田三恵子（代表者）平成15年度三菱財団研究助成、「子育てのセルフエフィカシーを高める出産育児期のケアの質と社会的支援に関する研究—地域における育児不安の軽減に向けたサポートシステムの開発に関する基礎的研究」。240万円

野澤 明子（代表者）財団法人 慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団「日本と中国における血液透析患者の自己管理行動尺度の開発」62万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	1件	5件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	6件
(6) 一般演題発表数	3件	

(1) 国際学会等開催・参加

4) 国際学会・会議等での座長

1. Mieko SHIMADA The 6th World convention of Perinatal Medicine, Osaka, Sep, 2003.

5) 一般発表

ポスター発表

1. Shimada M, Sugimoto M, Masumori T, Nakane N, Akayama M, Murakami M, Yamazaki K : Pushing efforts \geq 15 seconds reduce maternal oxygen saturation -Effects of pushing efforts during labor on maternal and fetal health. The 6th World convention of Perinatal Medicine, Osaka, Sep, 2003.
2. Sakuraba S, Kubo M, komoda T : Suicide ideation and alexithymia in alcoholic patients. International Thematic Conference Diagnosis in Psychiatry : Integrating the Sciences. Jun 2003. Vienna Austria.
3. Kubo M, Sakuraba S, Komoda T : Alexithymia in the wives of alcoholics with a suicidal risk. The (Non) Expression of Emotions in Health and Disease. Oct 2003. Tilburg Netherlands.

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

1. 奈良間美保 日本小児看護学会 第13回学術集会 一般発表
2. 奈良間美保 日本家族看護学会 第10回学術集会 一般発表
3. 野澤 明子 第29回日本看護研究学会, 大阪市, 2003年7月
4. 白尾久美子 第8回日本看護研究学会東海地方会, 岐阜市, 2004年1月
5. 櫻庭 繁 第29回日本看護研究学会, 大阪市, 2003年7月

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

奈良間美保 日本看護科学学会 専任査読委員
島田三恵子 日本看護科学学会 専任査読委員
島田三恵子 日本助産学会 学術振興委員
島田三恵子 静岡母性衛生学会 理事
櫻庭 繁 日本看護科学学会 評議委員
櫻庭 繁 日本看護研究学会 評議委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	2件

(2) 国内共同研究

佐藤直美, 梶村春彦, 野澤明子, 新村和也, 名倉聖子, 谷岡書彦 (磐田市立総合病院), 吉田輝彦 (国立がんセンター研究所) 生活習慣とがんの罹患に関する疫学研究

白尾久美子, 水谷聖子 (日本赤十字豊田看護大学), 小林直司 (日本赤十字豊田看護大学), 稲勝理恵 (静岡県立大学), 野澤明子 新人看護師の臨床看護実践能力に関する研究

(3) 学内共同研究

梶村春彦 (病理学第一), 佐藤直美, 佐野武尚, ニコチン依存の形成に関与する遺伝子多型の影響について

野澤明子, 岩田真智子, 白尾久美子, 佐藤直美, 稲勝理恵, 血液透析患者の自己管理行動と健康関連QOLに関する研究

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 在宅療養児の包括的看護の確立にむけたコーディネーター育成プログラムの開発

小児在宅療養におけるコーディネーターの育成プログラムを開発するために、平成15年11月より1年間5回シリーズの予定で、病院看護師対象の少人数による継続学習形式の研修会を開催し、前半2回の講演形式の研修会に参加した看護師13名に対し、研修会前後に質問紙調査を行った。その結果、小児と家族の相互作用を意図した支援、ケア評価の能力向上において一定の成果が認められた。一方、社会資源の活用と意思決定の能力には十分な効果が認められず、看護師の能力向上を目指す教育プログラムと併せて、病院内の立場やシステムに合わせた役割を探る必要性が示唆された。

(奈良間美保, 堀妙子, 宮城島恭子)

2. 遺伝子診療部における看護実践基準についての検討

遺伝子診療部の診療に参加しながら、その中でのクライアントの反応や、診療後改めて行う面接を通して、遺伝子診療部を受診するクライアントのニーズを明らかにし、それをもとに遺伝子診療部における看護実践の要素を明確にすることを目的として研究を行った。本年度は5家系7回

の診療に同席し、その後3家系のクライアントに対し、診療後の心情の変化や診療内容の振り返りなどを尋ねる面接を行った。今後も引き続き診療への参加と面接を実施し、得られた記録・会話などから質的な分析を行う予定である。

(佐藤直美, 野澤明子)

3. 生活習慣とがんの罹患に関する疫学研究

個人の遺伝的素因は、生活習慣と共にがんの罹患の感受性に影響を与える。症例対照研究デザインを用いたcommon cancerの関連遺伝子多型と臨床情報・生活情報の解析により、がんの罹患に関する宿主・環境相互作用を明らかにすることを目的とし研究を行った。磐田市立総合病院の協力を得て、65歳以上の外来患者で文書にて同意の得られた方を対象に血液の採取、既往歴・生活情報などの収集を行った。本年度は351名分のデータを得た。引き続きデータの収集を行い、関連候補遺伝子多型の解析を行う。

(佐藤直美, 野澤明子, 相村春彦¹, 新村和也¹, 名倉聖子¹, 谷岡書彦², 吉田輝彦³) ¹病理学第一講座, ²磐田市立総合病院, ³国立がんセンター研究所

4. ニコチン依存の形成に関与する遺伝子多型の影響について

ニコチン依存をはじめとする喫煙行動に影響を与える遺伝子多型を検討することを目的に、本年度はドパミンD2 (DRD2) 遺伝子について、Taq I A alleleおよびTaq I B allele頻度についての検索準備を行った。喫煙行動に関する質問表を作成し、総合病院外来受診者および禁煙教室参加者に対しそれを用いた構成的問診と採血を行った。採取された血液は白血球からDNAを抽出し、PCR法にて目的の遺伝子多型を調べる準備を行った。これまでのところ、現在喫煙者93名、過去喫煙者61名、非喫煙者106名の検体を収集した。今後も継続してデータの収集を行い、また、喫煙行動に関連すると予想される他の遺伝子多型の解析についても検討する。

(佐藤直美, 相村春彦¹, 佐野武尚¹) ¹病理学第一講座

5. 新人看護師の臨床看護実践能力に関する研究

新人看護師の職場適応へのサポートを目的に、本年度は適応状況に関する調査を実施した。就職後12ヶ月にあたる3月に、新人看護師834名を対象に質問紙調査を実施した。回収率は、56%であった。結果、就職後12ヶ月経過した新人看護師は、「仕事への志向」、「看護師への志向」、「仕事からの苦悩」の適応に関する3つの要素が抽出された。

(白尾久美子, 水谷聖子¹, 小林尚司¹, 稲勝理恵², 野澤明子) ¹日本赤十字豊田愛知看護大学, ²静岡県立大学看護学部研究科

6. 日本と中国における血液透析患者の自己管理行動と健康関連QOL

日本と中国における血液透析患者の自己管理行動尺度の作成と尺度の信頼性・妥当性を検討し、自己管理行動を促進する援助が患者の健康関連QOLの向上に貢献するかどうかについて明らかにすることを目的とした。日本と中国における血液透析患者それぞれ約130名づつを対象に調査を実施し、自己管理行動尺度の信頼性・妥当性について検討を行った後、健康関連QOLとの関連につ

いて分析を行った。

(野澤明子, 岩田真智子, 王 愛平, 白尾久美子, 佐藤直美, 稲勝理恵)

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道